

2006  
春号



カタクリ



アカバナマンサク



サンカヨウ



キバナノアマナ



ハクモクレン

## 目次

平成17年度第4回理事会報告 .....	2
認定審査会報告 .....	3
会員活動紹介 .....	4
トピックス .....	5 ~ 7
お知らせ .....	8



# 平成17年度第4回理事会報告

NPO法人環境あきた県民フォーラム、平成17年度第4回理事会を開催しました。

平成18年2月23日午後1時30分から遊学舎 研修室で以下の件について話し合いが行われました。



第4回理事会

## 17年度「あきた環境優良事業所認定制度普及県委託事業」

事業所訪問目標件数120に対して、現在目標数を超える状態になっています。

## 秋田県地球温暖化防止活動推進センター事業

### 1) 環境省普及啓発補助事業

昨年12月に秋田市文化会館で「みんなで止めよう温暖化inあきた」を開催しました。NPO法人 気象キャスターネットワーク代表の平井信行さんによる講演「気候変動」と「デイ・アフター・トゥモロー」上映は、悪天候で申込人数を下回る参加になりましたが、映画の内容が豪雪に襲われた秋田で地球温暖化の恐怖を実感できるものだったという感想が多く寄せられました。

### 2) 地球温暖化防止活動推進員等研修事業(全国センター委託)

8月に北鹿地区の同和グループ、リサイクル関連施設見学研修を行った。

知識研修として、秋田市、北秋田市、横手市の3会場において、「環境あきた県民塾」と共催の形でNPO法人気象キャスターネットワークの講師による「地球温暖化とあきた」と題し、気象専門家の目から見た温暖化と秋田県のかかわりについて研修会を行いました。

地球温暖化防止活動についての参考になるものとして「地球温暖化防止活動推進ハンドブック2006年版」を作成し、推進員の皆さんなどに配布しました。

## 平成18年度総会について

平成18年4月22日(土)午後、遊学舎において開催予定です。詳細は8頁に。

## 地球環境基金助成金応募(e-ドライブグランプリ)

上記の事業を申請中です。

## 来年度のセンター事業として

まずは、推進員研修についての話し合いが行われ、省エネを掲げる団体との連携を考える、など提案がありました。講師候補として、岩手県葛巻町、他県センター推進員など、いろいろな案があり、今後検討予定です。

また、現地研修候補として横手清陵学院高等学校の雪冰冷房が挙がり、横手市に依頼しています。

都道府県センター普及啓発補助事業では、「CO<sub>2</sub>ダイエット作戦」を事務局から提案しました。全県対象で夏の電気の使用量のお知らせをもとに、昨年と比較して削減した率を競うという内容。周知方法や順位の決め方を厳正に、あるいは、ルールづくりをきっちりという意見が出され、今後、委員会を設けて内容の検討に入ります。県庁が作成した「エコ家計簿」と連動させるのも1つの考え方だろうという意見もありました。

来年度のあきたエコ&リサイクルフェスティバルでダイエット作戦の大賞を発表することも提案されました。

会員の皆様も、上記検討内容にご意見等ございましたら、事務局までお寄せください。

# 認定審査会報告

理事会終了後、菊地英治審査委員(県立大学助教授)あきた環境優良事業所認定制度審査員4名出席で平成17年第2回認定審査会が行われました。

## ステップ2

東北緑化環境保全(株)秋田支店 報告:高橋審査員 (株)ビッグ 報告:工藤審査員

## ステップ1

(有)朝日工業 報告:工藤審査員 合資会社 寺田屋 報告:館岡審査員  
アイ・エム・サービス秋田(株) 報告:小川審査員 (株)秋田市場運送 報告:館岡審査員  
秋田県立小坂高等学校 報告:小西審査員 (有)高桑土木 報告:館岡審査員



認定審査会のようす



審査員も加わって

STEP2 東北緑化環境保全株式会社 秋田支社(秋田市)		
取組目標	1 省資源・省エネルギーの推進	<抜粋> ・冷暖房の温度管理を適切に行う。(冷房28、暖房20に設定) ・事務所や分析室の不必要な箇所の消灯を徹底する。(昼休みの消灯) ・パソコンやOA機器未使用時の電源OFFを実施する。 ・分析室を使用しない時は、不必要なエアコン、ドラフト等の電源OFFを実施する。 ・風呂洗浄等でお湯を使用する際は、適切な温度で行う。(現状温度より2下げる)
	2 廃棄物の排出抑制・リサイクル・適正処理	<抜粋> ・複数ページの印刷物は、2アップ4アップ等を活用する。 ・印刷前にプレビューで再確認し、ミスコピーを減らす。 ・プリント実質枚数のチェックを行う。(カラーコピー使用枚数も別途チェック) ・不用品事務用印刷物(紙)は、ごみ箱に捨てずにシュレッダー処理をし、梱包の緩衝材に利用する。また他の再利用方法を検討・確立する。 ・ダンボールは、廃棄せず保管し、運搬用に再利用する。
	3 水質汚濁等の防止	<抜粋> ・廃棄物排出量(廃液) ・製品の残液廃棄は、必要最小限の洗浄水で行う。 ・試薬調整は、必要最小量で調整し、余分な廃液を出さない。
	4 化学物質対策	薬品管理 ・試薬棚卸(在庫管理)を定期的に行い、徹底した薬品管理を図る。(劇・毒物:1回/月、その他:1回/半年) (当社開発製品の薬品管理システム IASO にて管理)
	5 節水・水の効率利用	水使用量 ・水道の蛇口周辺に「節水メッセージ」を張り、節水を呼びかける。 ・使用量の集積等を周知し、節水の呼びかけを図る。(1回/月) ・水道水は、必要量のみの開閉操作を行い、水の流しっぱなしはしない。 ・器具洗浄は、洗け洗いを徹底し、水の使用量を減らす。
	6 輸送に伴う環境負荷の低減	燃料使用量(自動車用燃料) ・最大限プリウス(ハイブリッドカー)を活用し、総燃料使用量を削減する。 ・アイドリングストップ・適正速度運行等を徹底する。 ・構内移動は自転車を活用する。 ・車種別に前年度比較等を報告し、削減に対する意識向上を図る。(1回/月)
	7 グリーン購入(事務用品)	・環境に配慮したグリーン購入法適合品を購入する。 ・グリーン購入関連のパンフレット等を回収し、意識の向上を図る。 ・新規購入の際は、消耗部分を交換、補充できる品物を購入する。 ・既存の事務用品のうち、環境に配慮したグリーン購入法適合品以外のリストを作成し、随時環境に配慮した品物に変更する。 ・コピー用紙は、白色度70%、古紙配合率100%を使用する。
事業概要	【造園土木】・緑化工事の計画・設計・施工・管理コンサルティング・仮設資材・各種フンス等の販売・施工 【測定分析】・公害関係の測定・分析・特定軽量証明事業(ダイオキシン類測定分析) 【環境計量証明事業】・測定・騒音振動・作業環境測定 【環境調査】・環境アセスメント・大気環境調査(気象・大気等)・水域環境調査(海域・河川・湖沼等) 【環境コンサルティング】・薬品管理システム IASO(販売) 【環境修復】・土壌・地下水環境コンサルティング	

STEP2 株式会社 ビック(にかほ市)		
取組目標	1 省資源・省エネルギーの推進	<抜粋> ・日中はブラインドを開け太陽光を取り入れます。 ・風力発電装置を夜間の常備灯などに有効に利用します。 ・パソコンのモニターや本体は自動電源オフに設定します。 ・パソコンのモニター、駆動場の夜間照明は常時点灯からセンサー感知式を導入します。 ・書庫の通風化を呼びかけ節電的な発熱を控えます。 ・温度計を各所に設置し、室温の監視と意識付けを行います。 ・間仕切りを設置により可能な限り分割冷暖房を行います。
	2 廃棄物の排出抑制・リサイクル・適正処理	<抜粋> ・梱包材、緩衝材等は可能な場合再利用します。 ・電子媒体での定規の文書・記録はプリントしません ・生産効率改善及び保管改善等によりスクラップ発生量を低減します。 ・電気製品、印刷機等の夜間照明は常時点灯からセンサー感知式を導入します。 ・書庫の通風化を呼びかけ節電的な発熱を控えます。 ・温度計を各所に設置し、室温の監視と意識付けを行います。 ・間仕切りを設置により可能な限り分割冷暖房を行います。
	3 大気汚染・水質汚濁等の防止	1 地球温暖化係数の高いガスを含むエアコン製品等は購入を控えます。 2 フロンガスが使用されている電気製品・車両等は監視対象とし、廃却時適切な処理を実施します。
	4 節水・水の効率利用	<抜粋> 1 水道の蛇口に節水コマ等を導入し節水に努めます。 2 トイレに節水栓を導入し節水に努めます。 3 トイレの2流し、流しっぱなしを控えます。
	5 輸送に伴う環境負荷の低減	1 秋田県の推進するアイドリングストップ運動に参加・登録し、行動方針を実践します。 2 社有車の運転免許の付く操作を控え、アイドリングストップを励行します。 3 社有車の取換更新時は低燃費・低排出ガスの車両を選定します。
	6 グリーン購入	<抜粋> ・物品購入の際は可能な限りグリーン購入法認定商品、エコマーク認定商品を選定します。 ・秋田県リサイクル認定品を優先的に利用します。
	7 社会貢献・地域の環境保全活動	<抜粋> ・事業所数内には定期的に清掃し環境美化に努めます。 ・原材料・製品・半製品の保管場所は5S活動等により整理整頓に努めます。
事業概要	<抜粋> ・目指すべき環境像を「株式会社ビック環境方針」に定め、達成に努めます。 ・環境改善理念を浸透させるため、人材育成と社員の啓蒙により、組織的活動に努めます。 ・可能な場合公共交通機関などの利用を推奨します。 当社は平成6年7月、電子部品の生産を目的に有限会社ビックとして設立創設いたしました。 平成11年1月1日には株式会社ビックとして改組し、現在は省力化機械の精密部品加工から機械組立、電気制御版の設計政策及び機械配線までを一貫生産しております。 リサイクル対象商品としては、リサイクルポット成型機、小型風力発電装置等を製造販売し、社会的環境問題への取り組みを物作りでも実践しております。	

STEP1 有限会社 朝日工業(にかほ市)		
取組目標	1 日常業務における省エネルギーに努めます。	・昼休み休憩時等は、必要箇所以外消灯に努めます。 ・冷暖房の温度管理を適正に行います。
	2 廃棄物やゴミの減量化とリサイクルに努めます。	紙の使用量の削減のため、裏紙の使用に努めます。
	3 地域の環境保全に努めます。	事業所敷地内の清掃、整理整頓に努めます。
	4 環境に配慮した製品の購入に努めます。	リサイクルしやすい製品を優先的に購入し、使用に努めます。
事業概要	・中小物各種金属、樹脂系機械部品の加工販売をしております。 ・ユーザー様の希望に添うよう柔軟な対応で製品製作業務に努めております。	

STEP1 株式会社 秋田市場運送(秋田市)		
取組目標	1 スラック(営業車)の適正な使用により燃費向上に努めます。	デジタコを搭載し、軽油の使用量を5%削減を旨とします。
	2 環境保全活動の推進	事業所周辺を定期的にクリーンアップします。
	3 こみの減量リサイクル	コピーの裏紙を再利用します。
	4 ネットワークの構築	1台パソコンを導入し、ネットワークを構築し、紙の使用を削減します。
事業概要	秋田市中心部卸売市場を拠点として、水産物の荷役及び輸送業務を主に親会社より請け負っています。近年は、温度管理を徹底し水産物のみならず、果物・野菜等農産品全般の輸送にも力を入れています。	

STEP1 有限会社 高桑土木(秋田市)		
取組目標	1 自動車の燃費向上に努めます。	アイドリングストップに努め、省エネ走行をします。
	2 環境の保全に努めます。	産業廃棄物など適正に処理することに努めます。
	3 環境に配慮した製品の購入に努めます。	エコ製品及び環境負荷の少ない製品を使用します。
事業概要	土留工事、造成、補修等の各種基礎土木工事を請負し、施行しております。また、公共土木工事の下請け工事等の事業展開を行っております。	

STEP1 合資会社 寺田屋(秋田市)		
取組目標	1 日常業務の省エネルギーに努めます。	不在時の消灯、パソコンの節電に努めます。
	2 環境に配慮した自動車の運転に努めます。	急発進、急加速、アイドリングをしない。
事業概要	販売促進に関わる	

STEP1 アイ・エム・サービス秋田 株式会社(秋田市)		
取組目標	1 日常業務における省エネルギーに努めます。	・使用していない電気製品の電源を切り、無駄なエネルギーを使わないよう努めます。
	2 環境に配慮した自動車の使用に努めます。	・相乗りを励行し、ガソリンの消費を削減します。 ・アイドリングストップに努めます。
	3 こみの減量化に努めます。	・会議用資料は、両面又は、縮小コピーの徹底を図り、コピー用紙の削減を図ります。 ・社内文書の電子化を進め、ペーパーレス化を推進します。
	4 リサイクル活動の推進に努めます。	・プリンターのトナーカートリッジは、回収しリサイクルに努めます。
事業概要	情報処理サービスの提案型企業として、また地域活性化のお手伝いをするため、「お客様とコンピューターメーカーの間で双方に物言う企業」の立場と、自社ソフトウェアのノウハウを十分に生かした営業展開をしております。 主な業務内容 システムインテグレーション、ソフトウェアの開発、パッケージ作成及び販売 システム監査、システム機器販売、コンピュータおよび周辺機器の取組、設計、工事	

STEP1 秋田県立 小坂高等学校(小坂町)		
取組目標	1 構内で使用されるエネルギーの節約に努めます。	・冬期間は、外気温と室内温度を測定し、燃料消費量の相関性を把握し、省エネに努めます。 1日の水道・電気消費量を記録するなど。
	2 生・雑物の消費するエネルギー量を削減します。	・エコ家計簿を利用し、集計する。(生徒の自主組織:家庭クラブを組織する) 各人のエネルギー消費量を数値化することで環境に対する負荷を認識する。
	3 構内から排出されるごみの量を削減します。	・小坂町の家庭ごみの分別方法に準じて、種類ごとに重量を算出する。学校のゴミ処分業務委託費の明確な資料ともなる。今以上に合理的且つ効果的予算執行が可能となる。本校の技能教師・廃棄物処理業者の協力が不可欠。
	4 環境に配慮した製品を使用する。	・環境に配慮した製品の購入をする。
	5 地域の環境保全に努めます。	・本校でも従来学校周辺のごみ収集を行ってまいりましたが、この制度に参加することをもち、不法投棄の防止を認識する機会としたい。地元業者より協力を得る。
事業概要	学校の歴史 大正5年 4月10日 小坂町立小坂実科高等女学校設 平成11年 11月19日 文部省指定研究「豊かな心を育む教育」公開発表 創立 環境技術科発 昭和23年 4月1日 小坂高等学校に改称 平成15年 4月1日 普通科に観光コースと教職コース設置 昭和53年 6月13日 新校舎完成 平成8年 10月4日 創立80周年記念式典挙行 平成18年 10月 創立90周年記念式典 実施予定	



上記、ステップ1申請の6事業所とステップ2申請の2事業所について審査員から認定の報告書が上程され、今回申請のすべての事業所が「あきた環境優良事業所」に認定されました。それぞれの事業所の特徴や今後の取り組みに対するアドバイスなどについて、審査員の皆さんへ委員から質問が続出しました。既に取り組み始めているところ、これから本格的に始めようというところ、立場はいろいろですが、環境に対する負荷を低減しようとする姿勢は、すばらしいことです。審査員報告には、土日に使用しない社内の自動販売機に、ウィークリタイマー（金曜日夜6時オフ 月曜日朝オン）を取り付ける提案や、光熱水費の記録をグラフにする提案など、事業所が具体的に取り組みやすいアドバイスが多くありました。中に「5S」という項目があり、ローマ字の頭文字がSである「整理・整頓・清掃」のアクションが「清潔・しつけ」の結果に結びつくという道徳的な観点も、聞いてなるほど、でした。今回、県立高等学校として初めて申請、認定された小坂高等学校は全校挙げて県が作成した「エコ家計簿」に取り組んでいただくことになりました。ほかにも、校内に積算計（電力用）を利用することや、地域性を活かして、間伐材、廃材を使用した手作りの分別BOXを生徒が作成する計画を立てているということです。生徒たちがリーダーとなって学校のみならず、小坂町全体の環境負荷低減運動につながるように運用していきたいということです。また、この制度に取り組んでいただいた事業所の多くがアイドリングストップ宣言事業所に登録されており、経費削減やCO2削減に有効な方法だと思います。審査員からは、公共事業参加の際のISO取得は加点制度があるが、あきた環境優良事業所認定制度にも加点があると、もっと環が広がるという意見が出されました。まずは、認定事業所がふえて市民権を得ることが必要なかもしれません。申請や制度につきましてはホームページ参照、あるいは事務局にお問い合わせください。



分別表示

## 第4回秋田県リサイクル製品認定と製品PR工事

県のリサイクル製品認定制度の第4回認定審査委員会が平成18年2月22日開催されました。審査された23製品が3月1日付で認定され、合計で135製品となりました。

今回は、秋田市のゴミ処理施設でできる溶融スラグを活用したコンクリート製品などのほか、新たに秋田杉の間伐材を利用した床材「フローリング」も仲間入りしました。

同制度は県内の廃棄物の減量化やリサイクル産業の活性化などを目的に県条例に基づき設けられたもので、県環境あきた創造課は、「公共事業向け資材などの製品が多くなっているが、今後は県民により身近な生活関連の製品が増えてほしい」と話しています。

県では、これらの認定製品を活用したPR工事（認定リサイクル製品普及モデル事業）を県内各地で実施しており、平成17年度は11ヵ所で実施しました。にかほ市象潟町の鳥海国定公園中島台駐車場のトイレは、多くの製品を工夫しながら新築整備され利用者に喜ばれています。利用する機会がありましたら、実際の製品を確認してみてください。18年度も県内各地で実施を予定しています。



遊学舎の大きな看板



認定審査委員会の様子



杉間伐材のフローリング



象潟町 中島台駐車場のトイレ

### 会員活動紹介

### 低学年教育への新しい提案

秋田環境開発機構(株)

代表取締役 / 小沢 秀宣

秋田環境開発機構(株)では、子どもたちの環境学習の一環として秋田市新屋の日新保育園（高橋峰子園長）の年長さんへガラス瓶リサイクルの「エコグラスアート」（砂絵）をプレゼントしました。

グラスアート（砂絵）は糊のついた台紙に色のついたガラスの粉を載せて貼り付け、図柄を完成させていくものです。エコグラスアートは秋田県内の各家庭から資源ごみとして出されたガラスビン等特殊加工し学校教材として開発した秋田県認定リサイクル製品（スパークルカレット使用）です。

大人は、とかく見本や説明などにとらわれがちですが、子どもたちは独自の感性で色づけをしていて、みんな芸術家の卵でした。

1枚の絵を完成させる砂の量はリサイクルされたガラスの四合ビン1本程度からできるということです。ガラスビンは、捨てればただのゴミですが、リサイクルされて綺麗なグラスアートに生まれ変わるといふことに、子どもたちはビックリしていました。

日新保育園を初めとして秋田市内の29民間保育所では「ちょっぴり運動」という活動を行っていて、その一環として園児や先生と一緒に、ご近所の公園などのゴミ拾い運動をしているそうです。小さな心に環境に優しい心が育っているのは嬉しいものです。

完成した園児のグラスアート作品は、保育園のある新屋地区の福祉健康温泉で展示され、訪れた人たちの目を楽しませてくれました。

秋田県での廃ガラスびんの年間排出量は、約10,000トン以上、そのうち資源ごみとして分別収集されているのが約8,000トンです。2,000トン以上は、いまだに投棄、あるいは埋め立て処分されているのが現実です。

資源ごみとして収集されている廃ガラスびんも再利用されているのは非常に少なく、ほとんどは破砕処理され砂として埋め立て処理されています。

廃ガラスびんのリサイクルは全国的にも有効利用が進まず、環境への大きな負担となっています。この「エコグラスアート」がリサイクル推進と循環型社会への力となり、子どもたちの将来に素晴らしい環境をつくり、守るために役立つことを提案しています。

秋田県大仙市北野目字白山堂下700番地

TEL : 0187-75-2571 FAX : 0187-75-2578

<http://www.kankyokaihatu.co.jp/>



秋田県認定リサイクル製品 マーク



展示された作品



ここに黄色を



やったあ、うまいじゃん

**クイズ** 1 お風呂の残り湯を洗濯に使うと1年間で、どのぐらいの節約になるでしょうか？  
2,000円ぐらい 3,000円ぐらい 5,000円ぐらい

## マックスバリュ東北 こどもエコクラブコンクール

マックスバリュ東北(株)では、こどもたちがいろいろな環境活動を行うこどもエコクラブを支援しています。平成18年3月4日(土)秋田県内だけでなく、青森県、山形県から14のクラブが参加し、秋田市土崎のマックスバリュ東北(株)本部で「マックスバリュ東北こどもエコクラブコンクール」を行い、この1年間の活動発表をしました。

それぞれのクラブが、日頃の活動についての写真や壁新聞などを見せながら、元気いっぱいに紹介していました。松くい虫対策を初めとする植樹、地球温暖化防止、畑で野菜を育てる、クリーンアップ、自然観察、地域での水質調査、北東北子ども環境サミット、エコクッキング、施設見学、盲導犬育成募金活動など、いろいろな活動がありました。

こどもたちが楽しみながら体験をして環境について学習をするために、一緒に支えてくれる保護者を含むサポーターの存在は大きなものと思います。

どの発表も内容の濃い、素晴らしいもので、勉強になることがたくさんありました。ごみの種類でダントツ一位はタバコの吸殻という発表や、こどもたちが学習したことを聞いて、大人がしっかりしなければと反省、痛感されました。

このあと、代表の6クラブが東北の大会に出場するというこです。

参加クラブ(発表順)

- ・ 十字こどもエコクラブ
- ・ 雄物川こどもエコクラブ
- ・ 深浦こどもエコクラブ
- ・ 西馬音内こどもエコクラブ
- ・ 黒石こどもエコクラブ
- ・ 西目こどもエコクラブ
- ・ 刈和野こどもエコクラブ
- ・ 新庄こどもエコクラブ
- ・ 中仙こどもエコクラブ
- ・ 本荘こどもエコクラブ
- ・ 秋田こどもエコクラブ
- ・ 天王こどもエコクラブ
- ・ 青森こどもエコクラブ
- ・ 弘前こどもエコクラブ



秋田こどもエコクラブ



西馬音内こどもエコクラブ



新庄こどもエコクラブ



青森こどもエコクラブ

## 角間川小学校ドリームレンジャー(大仙市)



ぼくたちがつくった看板です

水が流れ込んで、雄物川と合流します。残念ながら、親水公園の水は、あまりきれいとはいえません。子どもたちは、親水公園と同じく学校のすぐ脇を流れる横手川にも目を向けるようになり、水の汚れ具合を調べてみるようになりました。

今年度、4年生18名は、総合的な学習の時間の一環として、環境学習に取り組みました。本校のグラウンド横には、川港親水公園があります。魚釣りや生き物探しをしたりして、子どもたちにはとても親しみがあります。親水公園は、横手川から

横手川の中流・上流で、水質(pH・COD)と水生生物の調査を行いました。子どもたちは、水に入って熱心に網で生き物とりをして、指標生物の一覧を参考に調べました。その結果、中流は汚れていましたが、上流では、カワゲラなどきれいな水にすむ生物が見つかり、子どもたちからは「やった!」という歓声がありました。

川が汚れる原因は、生活排水やごみのポイ捨てであることも調査で分かりました。子どもたちは、自分たちの生活を見直したり、親水公園の清掃活動をしたりするとともに、地域の皆さんにも環境について考えてほしいと思い、呼びかけの看板作りもしました。一人一人が自分にできることをやっいていこうとする前向きな気持ちを持つことができました。

## 高瀬エコクラブ(由利本荘市)



発電方法を知ったり、エネルギーが電気に変わるしくみを教えてもらったりと、有意義な時間となりました。

1学期末には、これまで調べた水やごみに関する提言をポスターにし、学習参観日に発表会を行いました。発表を聞いたおうちの方からは、「私たちも気をつけないと」という感想が届きました。また、夏休みには、川の生き物を調べたり、廃材を利用したりサイクル工作を作ってきたりする子どもが多く見られました。

高瀬エコクラブは、4年生14名、クラス全員が参加しているクラブです。総合的な学習の時間を使って「環境」について考えてきました。

6月には、東北電力の方をお招きし、エネルギーに関する学習をしました。自然を生かした

学習を進めていくうちに、環境保護に対する子どもたちの感心・意欲が高まっていくのを感じました。そこで、その思いを絵に表して「ドラえもん自然はともだちコンテスト」に応募しました。その結果、個人賞全国一の環境大臣賞に選ばれ、賞状と賞品が届きました。審査員からは「みんなが自然と親しんでくれたことが、よく伝わってきました。」というコメントをいただきました。

由利本荘市立高瀬小学校4年の畠山夏葉さんの作品「第14回ドラえもん自然はともだちコンテスト環境大臣賞受賞作品」です。



## 「水と緑」地域再発見



戸沢村生まれの齋藤先生



吹雪にマケない参加者の皆さん



麓友会の下夕村さん



白神ネイチャー協会 工藤さん

「ふるさとの水と緑フォーラム～身近な水と緑の再発見～」と題して、地元の湧水、水辺、里山、鎮守の杜などを見直そうという会が平成18年1月21日（土）秋田市の遊学舎で行われました。

秋田県生活環境文化部 長沼 参事が自分の子どものころの神社の境内で遊んだ思い出話と、何か大事なものを忘れていたような気がして、それはふるさとの原風景ではないかというあいさつをされました。

お隣、山形県最上郡戸沢村立戸沢小学校校長の齋藤正昭さんによる「小さな村の大きな挑戦～すてきな故郷発見の旅～」と題した講演がありました。6,000人ほどの小さな村の宝ものは自然そのもので、地元を歩いて、調べて、親しみ、楽しみ、そして活かす活動につなげていくという地元学（地域のお宝探し）の考え方、そして、ふるさと意識を育てる「知郷」「親郷」「遊郷」「利郷」というキーワードをもとに、地域の学校、お年寄り、企業等が連携して『自然保護推進ネットとざわ』を立ち上げ、メダカ池をつくったり、ホタルを飼育したり、ギフチョウの保護活動にも取り組んでいるということです。自分たちが生まれ育った戸沢村は、すてきなところだという気持ちが育ち、自然に里地里山を大事にしている活動が広がっている様子は

とても楽しそうです。環境保護の視点に、地域づくりやふるさとづくり、そして子どもたちと一緒に楽しむことがプラスしていけば、きっと楽しく有意義な活動ができるのではないかと思います。

その後、今年度の県環境大賞受賞の横手市山内の「麓友会」下夕村 基作さんが、「結い」と呼ばれる協同制度をもとに、魅力ある山里を目指し、自然の恵みを利用した小型水力発電で地域の山頂にジャンボイルミネーションを点灯したり、遊水の里づくりに励んでいるという発表がありました。

また、同環境大賞受賞の八森町「NPO法人 白神ネイチャー協会」の工藤英美さんは、ハタハタの数が激減したことから、山の復元が海の再生につながるという思いで、世界遺産の白神山地のすぐ近くの裸地に地元で育てたブナの植樹を行っていること。100年計画であるものの、まずは「植えようブナを。育てようあなたの心」を合言葉に活動していると話されました。

白神ネイチャー協会

<http://www.shirakami.or.jp/asna/shirakami/>

地元にあると、あまりに当たり前過ぎて空気のような存在の水

と緑を再発見しようと、県環境あきた創造課では「ふるさとの水と緑」のホームページを開設しました。ちょっとした小旅行気分になれるサイトで、お勧めです。

ふるさとの水と緑

<http://www.pref.akita.jp/kankyoho/mizumidori/index.html>

また、2月16日（木）秋田市のシャインプラザ平安閣で秋田県「水と緑」の協議会（第2回）が開催されました。農林水産部 森林環境対策室主催で行われた協議会で、秋田県の「水と緑」の条例に基づき、さまざまな事業を行っていますが、さらに発展して県民運動として盛り上げていこうと、横断的な協議会で検討を進めています。森林、河川、農業、海、NPO、企業、教育、一般部門から委員が参加して今年度の関連事業や来年度の計画などについて意見を出し合いました。

【委員】敬称略

- |      |                          |
|------|--------------------------|
| 森林   | 小林 一三（秋田県立大学生物資源科学部）     |
|      | 大里 陽造（秋田県森林組合連合会）        |
|      | 平沼 孝太（東北森林管理局）           |
| 河川   | 青木 隆夫（国交省秋田河川国道事務所）      |
|      | 神宮字香子（内水面漁場管理委員会）        |
| 農業   | 泉谷美津子（女性農業士会）            |
|      | 熊谷 敬一（秋田県土地改良事業団連合会）     |
| 海    | 山本 優人（秋田県漁業協同組合）         |
| NPO等 | 河本 正徳（自然観察指導員協議会）        |
|      | 高村 文子（NPO法人環境あきた県民フォーラム） |
| 企業   | 山本まゆみ（マックスパリュ東北株式会社）     |
| 教育   | 津谷ゆき子（秋田市立川尻小学校）         |
|      | 伊藤 広美（秋田県立由利工業高等学校）      |
| 公募   | 原田美菜子（市民風車の会）            |

水と緑をキーワードに、秋田県内の米代川、雄物川、子吉川などの流域を単位としてネットワークをつくっていかうという提案が出されています。いろいろな地域や立場の人たちがかわっていくことで、理解が深まり、つながりが生まれてくるのが期待されます。

地球温暖化防止のために資すべしという発言も多く聞かれ、秋田県地球温暖化防止活動推進センターとしてはうれしい限りです。

森林の役割が大きいことは当然ですが、山と中間の川、そして下流の地域がどのようにかわれるのかということで、国交省秋田河川国道事務所の青木副所長が、岩手県の例を挙げて、上流部（山）の人たちが海岸のゴミを拾い、下流部（海辺、街場）の人たちが木を植えるという活動を紹介しました。地域なりの活動が幾つもあると思いますが、違う立場、違う場所に住む人々が一緒に活動できるような事業展開になればいいなと思います。

平成20年に開催される植樹祭についても、この事業と連携して盛り上げていきたいという事務局の説明がありました。

事業の評価方法など、いろいろ難しいこともありますが、海、森、川は秋田県の宝物ですから、「水と緑」の秋田県を守っていくために、まず、やってみる時期になっていると思います。県民へ、もっとアピールすることが必要だという意見も多く出されました。

秋田県農林水産部森林環境対策室

<http://www.pref.akita.jp/forest-p/index.html>

第59回全国植樹祭

<http://www.pref.akita.jp/zenshoku/index.html>

## 環境カウンセラーのつぶやき 竹谷 克己

### いまの私。そしてなかまを求む

環境関係の仕事をしたこともあって、6年前に環境カウンセラーの資格を得た。地球環境問題は複雑な要素が絡み合っているのだから全てをカバー出来るものではなく、カウンセラーとして絶えず勉強しながら、個人的に解決できるものは何かと模索を続けてきた。

私の場合は、主として次の3つのキーワードで取り組んでいる。1つ目のキーワードは「地球温暖化」である。地球温暖化の理屈を調べていくと、地球の歴史から宇宙の話まで及んでいくので中々興味深い。それはさておき、温暖化対策としてそれぞれに省エネ行動が求められている。私としては結構省エネ人間かと思っているのだが 例えば、食事はきれいに平らげる(戦後の暮らしの名残り)、早寝早起きの習慣(年がいっただけ)、すぐ腰を

上げない(?) などなど。家庭としては地産地消にこだわるようになってきて、高くても安全でおいしいものを...と心がけている。

2つ目のキーワードは「生物多様性」。自然関係は元々好きだったが、定年近くなって本格的にバードウォッチングを始めた。近くの川を散歩しながらの観察だが、鳥ばかりでなく魚や虫、そして植物とのつながりがいろいろ見えてくる。身近なところでの環境破壊で小さな生物の生存が脅かされているのに気がつく。なんらかの保全行動を起こしたいと思いながら、地域の小学校と連携を深めつつある。

3つ目は「ライフスタイルの変更」。少しずつの変わり様はあったが、もっとも大きな変化は定年。生活はつましくなった。何しろ車が減ったのが一番の省エネ。それに、趣味の楽しみの他に、少しボランティア活動をはじめたらこれも楽しい。

近く定年を迎える皆さん、余暇の選択のひとつに環境保全活動のボランティアをしませんか。期待しています。 Act locally (身近なところでやりましょう)

## 大雪の100万人のキャンドルナイトinあきた

平成17年12月22日冬至の夜、秋田市川反のギャラリー コラボラトリーで「100万人のキャンドルナイトin あきた2005」のアクションの1つが行われました。

初めは、みんなでネイチャーゲームに参加し体と心をほぐして、自然食工房ピスタさん協力のオーガニックの軽食とドリンクで幸せ気分のまま、「愛」についていろいろなゲストのトークを楽しみました。ネイチャーゲームは、自分の背中に貼った動物の絵を、ほかの人に見てもらいヒントを言ってもらって当てるというもので、結構盛り上がりました。

オーガニック軽食の内容は、自然食品、そして卵・乳製品・白砂糖を使わないメニューで地球とつながっている美味しさを存分に味わいました。マクロビオティックという、化学物質や刺激物を控える生活スタイルをもとにしているそうです。

外は夕方から大雪が降り出し、銀世界は綺麗でしたが、やっぱり秋田県民としては、明日の朝の雪かきが...という話題が自然と口について出ていました。

冬至のこの日、秋田市内でも多くの施設がライトダウンに協力しました。秋田県庁、秋田市役所内の課、室などのほか、アトリオンビル、サンルーラル大瀧、久保田城御隅櫓(佐竹史料館)、千秋公園表門、秋田市赤レンガ館、西武百貨店ほんきん西武などがライトダウンに協力し、お仕事に従事している方々も残業をせずに早めに事務所の消灯を行い、個人のお宅でも、雪にキャンドルを埋め込んで幻想的、スローな時間を楽しんだそうです。



大雪だけど綺麗



トーク中

## しっかり調査で堂々たる発表!



今日から始めるリサイクル



世界をとくす酸性雨

平成18年2月13日(月)秋田県立岩見三内中学校1年生の環境学習fit発表会を聞く機会に恵まれました。fitというのは「ふれあい 岩中 タイム」の頭文字を取ったものだそうです。

「今日から始めるリサイクル」は、佐々木美夏さんが電池のリサイクルについて発表しました。電池の種類、どこに使われているものか、リサイクル可能かどうか、リサイクルする場合の回収方法など、わかりやすい説明スライドを使って発表しました。電池にもたくさんの種類があり、リサイクルできるものが多いことがよくわかりました。

「世界をとくす酸性雨」は、佐々木友里香さんが、自然環境に恵まれている岩見三内で、どうして酸性雨が観測されるのかという疑問から始まり、酸性雨の恐怖について調査し、自分たちのできることに つなげて発表しました。酸性雨は砂漠化につながり、銅像が溶け出したり、湖から魚が消える、肺や目の病気がふえるなどいろいろな悪影響があり、国境を越えて世界中にその被害が認められるということです。自分たちでできることは、アイドリングストップをすることやシャワー使用の時間を減らすことなどに取り組んでいるそうです。岩

見三内地区は地形的に中国方面から大気が流れこみ、山にぶつかることから酸性雨が降りやすいという先生のお話もありました。

岩見三内中学校では、全校でアルミ缶リサイクルに取り組んでいて、玄関前には大きなアルミ缶回収箱(木製品)を置いてあります。そのアルミ缶を回収してくださっている大手金属㈱(三菱マテリアルグループ)茨島工場の斎藤工場長さんがオブザーバー参加しており、アルミ缶のリサイクル率は平成16年で86.1%になっており、そのリサイクル効率が原材料からアルミをつくるのを100としたら、アルミ缶リサイクルでアルミをつくるのは、3ということで、とても効率の良いリサイクルだという説明がありました。

また、車などのバッテリー(鉛蓄電池)も業者やディーラーでリサイクル用に引き取ってくれるということも教えていただきました。

発表してくれた中学生お二人は、しっかりと調査し、きちんと整理された発表で、わかりやすく興味深い内容でした。この後、クラス全員が自分の選んだテーマで発表することになっています。こういった環境学習が将来につながっていくことを実感した時間でした。

岩見三内中学校 <http://www.edu.city.akita.akita.jp/iws-c/index.html>  
 大手金属㈱茨島工場 <http://homepage2.nifty.com/ohte-metal/>  
 アルミ缶リサイクル協会 <http://www.alumi-can.or.jp/>



1年A組の皆さん



## ～おらほの現場の「とっておき」～ 秋田県公共事業環境配慮優良事例発表会

県が実施した公共事業を環境配慮という視点で評価し、その優れた事例を発表する会が秋田県庁第二庁舎大会議室で1月31日（火）開催されました。各部署から推薦された優良事例の事業内容についてそれぞれの現場職員が発表するという初めての試みで、どの事例も「とっておき」で発表する方も心なしか胸を張ってお話しているようでした。県庁は大所帯なので、ほかの部署の業務内容についてまでは、よく知らないという職員が多いかもしれませんが、このような発表会は内部交流にもなり、意思疎通にも寄与するとてもよい企画だと思います。

### <優良事例 担当機関>

- 河川の整備事業（施工段階）
- 広域基幹河川改修事業 桧木内川（田沢湖工区）
- 仙北地域振興局建設部河川砂防課
- 建築物、工作物の整備事業（設計段階）
- 秋田県立中高一貫教育高（県南地区）整備事業 横手青陵学院高等学校・横手青陵学院中学校
- 建設交通部営繕課
- 道路（林道）の整備事業（設計段階）
- ふるさと林道緊急整備事業 花矢線
- 北秋田地域振興局農林部森づくり推進課
- 農業農村の整備事業（施工段階）
- 担い手育成基盤整備事業 真崎地区
- 仙北地域振興局仙北平野農村整備事務所
- 漁港漁村の整備事業（施工段階）
- 地域水産物供給基盤整備事業 岩館漁港
- 山本地域振興局農林部農村整備課



仙北平野農村整備事務所 上野さん



仙北地域振興局建設部 佐藤さん

「環境との調和 濁水対策」仙北地域振興局建設部の佐藤さんは、田沢湖の護岸対策で自然石を使用し、観光面にも、自然植生などの環境面にも配慮し、水位調節で濁水を防止した経緯を発表しました。

「ク雪から利雪へ」建設交通部営繕課の児玉さんは、横手青陵学院（中高一貫高）建築で冷房対象の雪室を導入。今冬の大雪も、学院駐車場の雪は、外部に捨てに行く必要がなかったそうです。

「間伐材 リサイクル製品の使用」北秋田地域振興局農林部の小林さんは、ふるさと林道の整備事業でのり面保護や柵など、秋田県産スギ間伐材を有効利用し、秋田県産リサイクル製品を積極的に使用して、自然環境に配慮した例を紹介されました。

「希少種の保護 景観配慮」仙北地域振興局仙北平野農村整備事務所の上野さんは、湧泉の多い地区であり、保全対象種「イバラトミヨ」などの存在があることを考慮し、勾配や落差、そして工法に工夫をし、なおかつ周囲の景観と調和した用排水路の改善に努めたと発表。その工法を採用すると、後の維持管理に手がかかるところから、地元住民と計画段階で十分に合意形成をすべきであり、なおかつ環境配慮の維持管理コストをどうするかなどの問題提起を行いました。

「消失藻場の復元」山本地域振興局農林部農村整備課の藤原さんは、漁港整備事業により、ハタハタの産卵場となる藻場の一部が消失する恐れがあることから、海藻が生育しやすい水産調和型被覆ブロックを設置し、ハタハタなどの資源の維持・増大を図ったそうです。

## 総会のお知らせ

特定非営利活動法人環境あきた県民フォーラム平成18年度総会を開催します。

講演（会員でなくても参加できます）  
テーマ「異常気象と地球温暖化」 講師 井出迫義和氏  
総会（社員・会員対象）

日時：講演 平成18年4月22日（土）午後1時30分～  
総会 " " 午後3時～

会場：遊学舎（秋田県ゆとり生活創造センター）  
秋田市上北手荒巻字塚切24-2 会議室



井出迫義和 氏  
気象予報士登録第15号/王子鑑定第2号/  
防災士登録第4008号

### 経歴

筑波大学大学院環境科学研究科環境科学専攻修了  
気象庁気象研究所非常勤研究員  
財団法人日本気象協会気象情報部  
日本テレビ放送網株式会社報道局ニュース編集部  
気象環境センター有限会社設立（現職）  
現在、ラジオ日本で環境番組ナビゲーター担当  
主な著書：「気象科学事典」、「NHK気象災害ハンドブック」

## 入会について あなたも参加しませんか

未来の子もたちのために、秋田の環境をよりよくしていこうという活動の応援団です。当法人の活動やこのフォーラム通信発行のために会費を負担していただいています。

### 会費

区分	社員	一般会員
企業・企業関係団体	1口：1万円 年1口以上	1口：1万円 年1口以上
個人・民間団体	1口：3千円 年1口以上	1口：1千円 年1口以上

### 会費納入について

秋田銀行 県庁支店 普通 560425 北都銀行 山王支店 普通 6099633  
郵便振替口座 02280-7-76146

いずれも特定非営利活動法人 環境あきた県民フォーラム宛です。

なお、フォーラム通信送付の都合上、銀行振込の場合は事務局にご住所、お名前をご連絡ください。

## NPO法人 環境あきた県民フォーラム 秋田県地球温暖化防止活動推進センター ACCCA

〒010-1403 秋田市上北手荒巻字塚切24-2 遊学舎（秋田県ゆとり生活創造センター）内  
TEL・FAX 018-839-8309 Eメール mail@eco-akita.org ホームページ <http://www.eco-akita.org/>

ストップ!温暖化

### 事務局から

豪雪の冬も終わりに近づいて、春を感じるようになりました。1月5日の朝の積雪を思い出すと、つくづく春が訪れることが嬉しいことしは、どんな異常気象があるんだろう...って考えると暗々になるから、できることをやるっきゃないよね。

### クイズの答え

- クイズ1... (現在の秋田市で16日間です)
- クイズ2... (今は、2億5千キロリットル)

今号表紙の花の写真は秋林弘道さん提供です。ご自身のホームページにもたくさん花の写真が掲載されています。  
<http://www13.plala.or.jp/akibaya/index.html>